

水泳部の思い出

新大第22回 吉野 洋
S49年卒業

私が在籍しておりました、45年から、49年までの4年間は、長い伝統と、戦績を誇る、当部においても、最も存続の危機に直面した時代ではなかったかと思えます。諸先輩、後輩の方々と違って、私は練習のつらさの思い出がありません。(もっとも練習嫌いには有名でしたが)、楽しい思い出もプールではありません(プール以外では、富浦、哲士寮等多々あります)。水泳部での4年間について述べさせていただきます。

ハチ、ケント、ネコ、オギシン、なにやら耳慣れない、源氏名を持つ一部昇格メンバーと入れ替りに入部した、当時の私は、大学の水泳部にある種の期待と使命感に燃え、一日も早くレギュラーになると思っておりました。入学式前のうすら寒い東大プールの練習もしばらくのプランクを取り戻そうと頑張りました。春休みでしたので、先輩方は帰省等で練習の集まりが、まだ遅い位にしか考えませんでした。蓼科の合宿で驚きました。部員がいません。自分もレギュラーです。それでも、一年生ですから気楽にやっていました。そして全敗、二部降格です。来年頑張ろう。でも、翌年、翌々年、部員は増えません。二年、三年と三部落ちの危機は続きました。当時の私達の練習を見て、練習嫌いの可愛い気のない奴だと思われた方も相当数あったと思えます。し



神宮プールにて ポールをもっているのが私です。

かし、4年間一緒であった、私と小竹の精神的な苦しみは、たぶん理解していただけないと思います。なにしろ焦点は存続させることであり、試合では、負けな事だけが目標でした。「今の高校生が入るまで、つぶさない様にしよう」が相言葉でした。

そして、四年になり待望の部員が入部しました。勧誘、説得、遂に試合にまで、こぎつけた時は、本当にうれしかった。現役、最後の東大戦に勝った時、力をつけた、一年生を見て、私と小竹の4年間は無駄では、なかったと思えました。

あれから早いもので10年が過ぎようとしています。当時の感激や悔しさも既に薄れはしておりますが、プールと小竹と共に過した4年間に心から満足しています。水泳部の集まり以外で利害関係に関りなく行動することのない現在の私にとって貴重な財産であります。

なお、水泳部の伝統が絶えそうになった時、部員以外の方の協力は絶大でありました。特に数多くの試合に出場していただいた方を、列記致しますので、成城水泳会として感謝すると共に、出来ることなら準会員として登録していただきたい。

【48年卒】

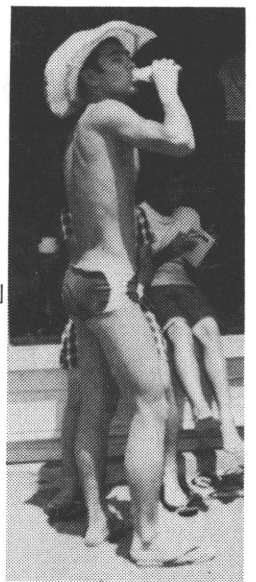
石井さん……泳力があり、本格的な部員として頑張ってくださいました。特に成蹊戦で相手キーパーに乗り上がったのゴールは、ルール無視で、ゴールジャッジもあきれていました。(それでも、1点得点です)

亀田さん……柔道の達人で、腕力抜群、専修の一年坊主もつかまれたら、身動きできませんでした。

越山さん……顔の割に気性は水球向きで、ずいぶん助けてもらいました。

【49年卒】

河原田君……この方は二年からですから、 $\frac{3}{4}$ 以上水泳部です。落ち込んでいる時、精神的に救われました。その他、応援団の先輩、松永君、富沢君、ありがとうございました。



成城大学水泳部季節労働者

新大第20回
S47年卒業 石井俊成

私も卒業してもう10年、毎年山の雪のたよりが聞かれなくなると、何となくブラリとプールに足が向いてしまう。そんな私に何故なってしまったのか。

私は、正真正銘の水泳部員であったとは、いい難い経歴の持ち主なのである。水泳部は、素晴らしい伝統と輝かしい戦歴を持つクラブです。しかし、そんな長い歴史のなかで私のような存在が何人もあったこととお話したい。

水泳部に最初に誘われたのは、石塚君、春山君、藤村君そして池上君たちが高校三年で元気よくプレーしていた頃、大学ではメンバー不足で困って人材（頭数ノ）を求めている時期だったと記憶しています。誘いの言葉は“メンバーが足りないので一試合だけ出場して欲しい、一試合だけ……。”だったのです。私は元来、現在大学にあるベルエーススキークラブを創立し、活動していたのです。今、思えば身程知らずだったと思いますが、当時は自分のトレーニングにプラスアルファと考え、スキークラブのトレーニングが終わるとプールへボロの練習に通い始めたのです。非常に冷い水、足をふんばることの出来ない水の中での練習、何をとっても楽なものはありませんでした。練習が終りプールからはい上る時は鉛のよう、フロに入る時の喜びは格別でした。いくら私が努力したところでラグビーをやり、そしてスキーをやっている私が、ガンバッタとところで他の仲間に、追いつき近づく事は、とうてい無理でした。高校生の石塚君や池上君もよく付合ってくれました。そんな私がゲームに出場しても、そのプレーは救いようのないものでした。

いよいよ神宮プールでのリーグ戦第一戦。対教育大戦。私を誘った仲間の説によれば必ず勝てる相手との事だったのです。さて、結果は無残な大敗。ハッキリ、今でもおぼえているのは、得点力のない私たちにプールサイドからとぶ声、とにかくシュートを打てとの指示、私の初シュート、キーパーの正面、ドン・ビシャと止められたのです。その次の瞬間、私の目に入ったのはプールサイドの中山監督の両手で顔をおおう姿、とにかく大負け、本当に口惜しか

った。その後も連戦連敗。当時の私共の最大の使命は二部リーグ残留。しかし、リーグ戦を半分くらい消化しようとしていた頃、この目標達成も大変に不安になって来たように思えました。

でも、当時コーチでいた大野（旧佐藤）さんの熱の入った指導もあり、対明治・成蹊戦でかろうじて目をあげ、入替え戦をまぬがれ、二部残留が決定、そして、その後の四大学では、延長、延長のくり返り返しであったものの連続優勝をストップさせることなしにシーズンを終わることが出来たのです。

この時期、私のような季節労働者は私を含め、亀田君・河原田君と三人おりました。今は全く音信がありませんが、三人共必死にボロにとり組んでいたもので、未熟なプレーヤーであったものの、水泳部をみな様と同様に愛していることは事実です。

最近は何のクラブでも部員不足を訴えているようですが、このスポーツの素晴らしさを知り、益々クラブが発展するよう心から祈っております。

水泳部の思い出

新大第25回
S52年卒業 窪田直人

私が成城水泳部の現役部員として在籍したのは昭和48年から52年までの大学4年間、つまり成城水泳部創立43年目より47年目ということになる。今、当時を振り返ると懐しいメンバーの顔が思い出されるが、中でも特に、まさしく同じ釜の飯を食いあった合宿にスポットを当てながらその懐しい学生時代に浸ってみる事としたい。

記憶は薄れつつあるが、確か入学早々は哲士寮に泊まり込んでの合宿があった。高校時代に競泳をやっていたとはいえ、1年間の浪人生活ですっかり水から離れた生活をしていた私にとっては約10日間の合宿はかなりしんどいものであった。泳ぐだけならまだしも、巻き足をしながらボールを使うなどという芸当はその当時の私には神技にも近いものに思えていた。何しろ私が1年の時には私を含めてちょうど7人であった為、いやが応にも試合に出ざるを得ない状況にあったのである。昼は実技の練習、夜はルールの勉強というのが私の最初の合宿であった。

2年目は前年までお世話になった正岡監督から根



左から、黒田君、石塚君、吉野さん、私、大石君岸監督に交代し、石塚新主将率いる新体制のもと（と言ってもメンバーは相変わらず7人という零細企業であったが）で二部優勝そして一部昇格を目指し、蓼科及び哲士寮で合宿を行なった。時に蓼科はブルの回り一面銀世界で高校生を交えての合宿であった。この年に卒業した吉野さんがそのOBぶり(?)を遺憾無く発揮していた事が記憶に新しい。

時はまたたく間に過ぎ3年目を迎える。この年は館山、下田そして青森と3ヶ所で合宿を行なった。4年間の合宿の中で一番印象に残っているのは青森県むつ市の自衛隊で行なった日体大、青森商業高校、成城大学の合同合宿であろう。近くの恐山は頂きに残雪をかぶり、桜花爛漫のゴールデンウィークの時であった。天下の日体大と合同練習をするという事で全員緊張の面持ちで合宿入りしたのであるが、予想していた通りその内容は厳しいものであった。下級生の中にはそのハードな練習に耐えられなくなり、自衛隊の敷地から何とか逃げようと綿密な「脱走計画」を企てる者もいたが、「脱走したら自衛隊員に撃ち殺されるぞ!!」とおどかして説得した位であるのでその内容は推して知るべしである。練習もさることながら一番こたえたのは食事であった。自衛隊という特殊環境のせい一汁一菜に近い内容のメニューで、差し入れのカップラーメン、身欠きにしん

で腹をうるおすという有様であった。つらい練習の合間の唯一の楽しみはOBに隠れて吸うたばこであった。下級生を見張りに立て、堤防の突端で吸ったたばこは今でも忘れられないほど格別の味であった。ある時、堤防まで行くのが面倒な為、宿泊所裏で吸っていたところをOBに見つかってしまい、翌日余分に練習させられてしまった。4年間のうちOBにたばこの現行犯で「逮捕」される常連は何人かいたが、私が逮捕されたのは蓼科と青森合宿の2回だけであったと記憶している。長い自衛隊での合宿を終え、敷地から開放された時、「ジャバ」の空気を吸うために全員で先づパチンコ屋に駆け込んだのはつい先日のようなものである。この年のつらい合宿に耐えた甲斐あってめでたくも一部昇格を果たせたわけであるが、その瞬間は私の学生生活、いや多分一生のうち最高に幸せな時であったろう。

4年目は館山、福島県芦ノ牧、哲士寮の3ヶ所で合宿を行ない、4年間で計9回を消化したことになる。他の学生が日曜日だゴールデンウィークだと言っては楽しげに遊びの計画をたてているのを横目でながめてはうらやましく思ったものであるが、今となってみれば4年間の水泳部生活が、又、その時のメンバーが私のかけがえのない宝物となった訳である。

私と共にプレーしたメンバーは、私が1年の時の4年生吉野洋さん、小竹信章さん、3年生秋元アツシさん、私が4年の時の3年生西堀栄信君、中村正人君、2年生黒田克己君、大石和男君、三浦誠君、1年生橋本孝明君、秦聖一君、そして同級生の石塚学君、池上（現小林）潔君、春山功君、尚承君。マネージャーとして中村律子さん、伊藤美紀さん、坂井由美子さん、野口知真子さん。願わくば、成城水泳部創立100周年の時に全員集合して五十数年前の話に花を咲かせたいものである。

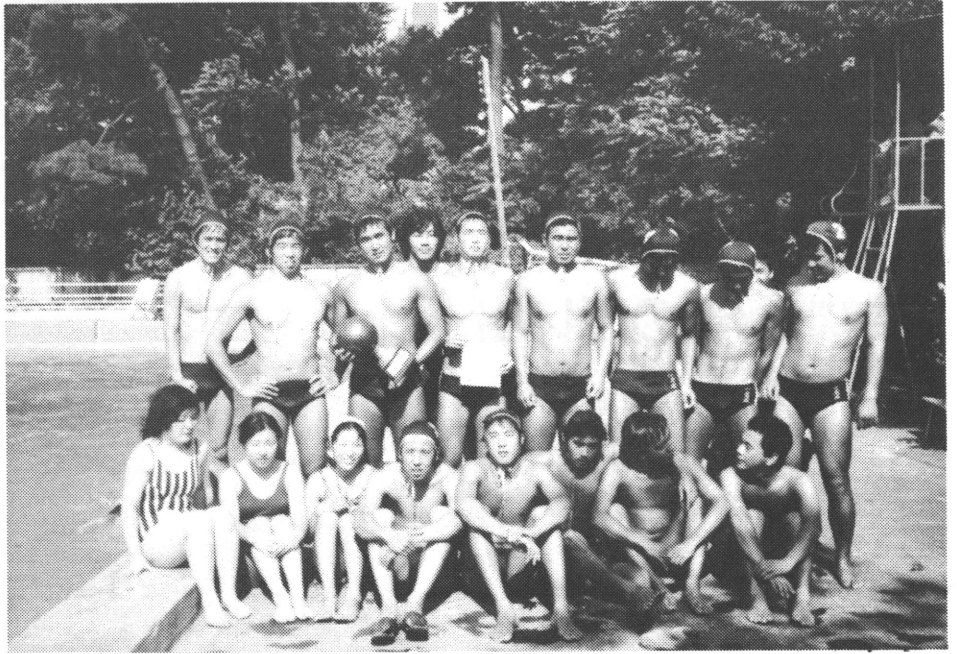
水泳部の思い出

新大第25回 小林 潔
S52年卒業 (旧 池上)

昔の事を、何でもいいから書けと言われて困ってしまいました。私は、作文を書くのが苦手なので、あまりうまく書けないと思うが了承してもらいたい。

第一に、一部昇格のことを思い出す。その年（昭

和50年)は、シーズン初めから、皆一部へ上がるんだと、はりきっていて、春、千葉の館山合宿で、競泳の練習中心に基礎体力トレーニングをし、5月のゴールデン・ウィークに青森の海上自衛隊のプールで合宿をした。この青森の合宿は、大学生活の中で一番きつい合宿だったと思う。何しろ、午前中、競泳の練習で午後から水球の基礎練習、夕食を終えてから、本格的な水球の練習と一日中、プールづけだった。途中から日体大が参加し、約



昭和50年7月 成城プールにて・念願の一部復帰をはたして

2週間いたのだから、肉体的にも精神的にも、シンドかった。でも、この合宿のおかげでリーグ戦が始まって、初戦の学習院戦では苦労したが、二部全勝し、教育大(筑波大)との一部入れ替えをむかえた。初日を勝ち、二日目を勝った瞬間、うれしさと今までの努力が報われたと思ひ、涙が止まらず、後から後から流れてきた。

第二は、4年生の時の対慶応インカレ戦である。リーグ戦を終了し、何とか一部へ残ったので、ホッととして、気楽にインカレへ臨めた。第3位を目差しがんばった。2対2の同点となり試合は接戦となったが、1点私が入れた後、私が退水して1点入れられてしまった。結局、3対3で引き分けとなったが、メジャーファールの差で負けた。この時の事は悔しくて、今でも時々思い出す。

ともかく10年現役生活を続け、私のような人間でも社会でなんとかやっていけるのも水泳をずっとしていたからだと思う。その恩返しの意味でも、できるだけ今後は、後輩の指導をしていきたいと思う。

涙・涙の青森合宿

新大第26回
S53年卒業

中村正人

上野発の夜行列車を降り、陸奥湾をながめながら、下北半島を北上。やがて恐山のふもと大秦の海上自衛隊基地に到着。東京より一ヶ月遅れて、桜前戦がやって来ていた。まるで我々一行を出迎えて来てくれているような、そんな気がした。

ゆったりと寛ぐのも束の間、私の嫌いな練習の開始です。ただここは成城の冷水プールとは異なり、太っちょさんが暑い暑いと言いだす程の適当な水温。実は、私はこれにつられて青森まで来たのです。

練習は一日三回の八時間、高校時代の法大合宿の九時間練習以来で、けっこう効きました。しかし、ここは自衛隊の敷地内で娑婆の世界と違って、女性はメンタきの五十がらみのおばちゃん一人。これに加えて食事はひどい一言。お湯ぬきのカップヌードル。コッペパンとソーセージ。ご飯一杯とみそスープ。これらが各々一回分の食事。池上さんでもやせたくらいで、私はこの合宿で4Kgもやせ、60Kgを割ってしまいました。ただ唯一の絆は差入れの身欠き鯖とレモン。食事が終わってから鯖を右手にレモンを左手に黙々とかじっていたことが昨日のように思い出されます。

ここでの安らぎは“タバコ”、黒田と大石の二人を見張りに立て、偉い先輩は棧橋の先端でブカブカ、こんなおいしいタバコはちょっと味わえませんか。(ちなみに、この合宿で喫煙がみつかったのは窪田

さん一人でした。)

卒業してから、はや六年。数ある合宿の中でやはり経験したことの多いことが多いせい、最も印象深く残りこの寄稿を書きながら次々と、練習光景や食事の様子が思い出されてきます。

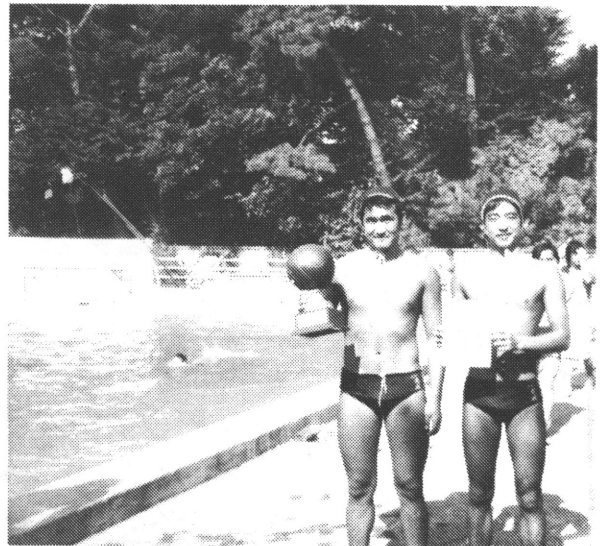
最後にこの合宿が一部昇格への道を決定づけ、我々に栄光の一ページをひらいたと確信しています。

大学水泳部の思い出

新大第27回
S54年卒業 黒田克己

大学時代我々は一部リーグで2年間プレーを行うことが出来た。そこで一部昇格に至る迄、及び一部リーグ在籍中の思い出を述べさせて頂く。

私が大学に入学する前年即ち昭和49年にも成城大学チームは二部優勝したものの入替戦で東京教育大に惜敗し、翌年に雪辱を期していた。従って我々が入部した時は先輩諸兄も気迫に満ちていた。3月に2回の合宿を重ねた後、ゴールデンウィークには青森県むつ市の海上自衛隊にて10日間の強化合宿を行



石塚主将(左側)と一部昇格の記念撮影

いリーグ戦に臨んだ。この青森合宿では1日3回8時間の練習を行ったが、練習の辛さのもとより、自衛隊の規則により食事の量が制限されていたことが何よりもこたえた。自衛隊正門の真正面にパン屋があったが、外出許可証(我々は体験入隊の形であった)が無いからといって門番がパンを買いに行かせてくれなかったこと、夜先輩達が埠頭の護衛艦の影で煙草を喫うのをOB(堀・正岡両氏)に見つからないように見張りをさせられたこと等が懐しい思い出である。

さてリーグ戦では二部全勝優勝を果たし2年連続東京教育大との入替戦に臨んだ。リーグ戦中に日体大、法大等の一部校とは練習試合をしていた為に当たりの強さ、スピードは些程感じなかったものの、相手も二部降格は何としても避けたいとの気持ちからであろうか、接戦が続き1回戦は4対4で引分け、延長戦の末6対4で辛勝した。2回戦は一転して点の取り合いになり、双方に永久退水者を多数出した末12対9で勝ち、一部昇格を果たした。翌年は一部校として何とか良い成績を残せる様にとシーズン初めから鋭意練習に励みリーグ戦に臨んだ。当時のメンバーは前年の一部昇格時と変わらず、GK・春山(4年)、№2・池上(4年)、№3・窪田(4年)、№4・黒田(2年)、№5・中村(3年)、№6・西堀(3年)、№7・石塚(4年)(敬称略)の布陣であった。水連関係の雑誌に「今年の一部は昇格してきた成城大が台風の目となろう。得点力は目ざましいものがあるが惜しむらくは後半の粘り、スタ



昭和54年12月 グァム島遠征にて 中村正人

成 績

関東学生水球リーグ戦に於て48年度二部リーグ第二位、49年度にはオール1.2年生メンバーで二部リーグ優勝したが、入替戦で惜しくも東京教育大（現筑波大）に1勝2敗（4対3、3対4、4対6）と苦杯をなめました。しかし翌50年は、新人に黒田、大石、西山らの新人の加入で戦力アップし二部連続優勝、そして入替戦でも前年負けた筑波大に二連勝（6対4、12対9）し、悲願の一部リーグ昇格を果たしました。

そして51年度から5シーズンぶりに一部リーグに復帰しました。関係者の間では二部リーグ敵なしの成城が一部校相手にどのような試合をするか注目を集めました。下馬評では、「石塚、西堀の重量フォワードの活躍いかんでは台風の目になるのでは」と見られてました。結果は八校中6位と満足出来る成績ではありませんが、試合内容は、成城独自の遅攻そして石塚、西堀のツーフロート、スタンディングプレーそれに黒田の縦からの攻撃による得点力それに中盤中村の頑張り、池上、窪田のきついディフェンス、キーバ春山の好守と他校を驚ろかせました。もう一年早く一部リーグへ復帰していればAグループ入りも夢ではなかったでしょう。またこの年、全日本学生水球選手権では、慶応大と三位決定戦を行ない3対3同点反則数負けて惜しくも4位になりました。

大学紛争後、部員確保が難しくなった水泳部を熱心に指導し、ここまで鍛え上げた監督の根岸繁雄さんコーチの山本勉さん、岡本浩三さん、正岡勝さん、柏野建人さん、吉野洋さん、その他OBの方々の努力が選手を発奮させ、キャプテン石塚を中心に選手が切磋琢磨し、トレーニングに励んだ結果が盛り上りを興こしたのでしょう。しかし、残念な事に翌年主力選手4人が抜け二部リーグへ降格してしまいました。成城の場合、部員不足で選手層が薄いので浮き沈みが激しいのは、しかたない事かもしれません。しかし今後は是非中、高大と一貫した選手作りを行ない、大学からの戦力をプラスして行くというスタイルにして、なんとか、選手層が厚く、そして強力なチームを作り上げ、そして、ふたたび一部リーグに復帰させたいものです。

51、52年度と、一部を2シーズンしか堅持出来ませんでした。選手は精一杯、よく頑張ってくれました。50年に西堀が、51年に石塚が、そして、52年に黒田が、全日本候補選手に選ばれました。

昭和51年度

関東学生リーグ戦

5月22日 日体大10 $\left\{ \begin{matrix} 1-1 \\ 3-0 \\ 5-1 \\ 1-0 \end{matrix} \right\}$ 2成城

5月23日 日大10 $\left\{ \begin{matrix} 2-0 \\ 3-1 \\ 3-1 \\ 2-2 \end{matrix} \right\}$ 4成城

5月29日 中大14 $\left\{ \begin{matrix} 2-2 \\ 4-1 \\ 5-1 \\ 3-0 \end{matrix} \right\}$ 4成城

5月30日 慶大7 $\left\{ \begin{matrix} 2-1 \\ 3-1 \\ 3-1 \\ 1-1 \end{matrix} \right\}$ 3成城

6月5日 専大8 $\left\{ \begin{matrix} 2-1 \\ 3-2 \\ 2-1 \\ 1-1 \end{matrix} \right\}$ 5成城

6月6日 成城6 $\left\{ \begin{matrix} 2-1 \\ 1-1 \\ 1-1 \\ 1-1 \end{matrix} \right\}$ 4早大

6月12日 成城7 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 3-1 \\ 2-1 \\ 1-0 \end{matrix} \right\}$ 2法大

6月13日 日体大17 $\left\{ \begin{matrix} 4-0 \\ 6-0 \\ 4-0 \\ 3-1 \end{matrix} \right\}$ 1成城

6月19日 日大9 $\left\{ \begin{matrix} 1-1 \\ 1-1 \\ 2-1 \\ 5-1 \end{matrix} \right\}$ 4成城

6月20日 専大6 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 0-2 \\ 2-0 \\ 3-2 \end{matrix} \right\}$ 4成城

7月3日 成城9 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 2-1 \\ 4-0 \\ 2-1 \end{matrix} \right\}$ 2早大

7月4日 成城7 $\left\{ \begin{matrix} 1-0 \\ 2-1 \\ 2-1 \\ 2-0 \end{matrix} \right\}$ 2法大

順位

1位	日体大	14勝0敗	勝ち点	28
2位	中大	11勝3敗	勝ち点	22
3位	日大	10勝3敗1引き分け	勝ち点	21
4位	専大	7勝5敗2引き分け	勝ち点	16
5位	慶大	6勝8敗	勝ち点	12
6位	成城大	4勝10敗	勝ち点	8
7位	法大	2勝11敗1引き分け	勝ち点	5
8位	早大	0勝14敗	勝ち点	0

全日本水球選手権

1回戦	成城6 対 4慶応	2回戦	稲泳会6 対 5成城
全日本学生水球選手権			
1回戦	シート		
2回戦	成城8 対 2東大	準決勝	中大8 対 4成城
三位決定戦	慶大3 対 3成城		慶大の反則勝ち



グァム島遠征 練習風景

「ミナに欠ける。」との寸評が掲載され皆で苦笑し乍らも、何とか日体、日大、中央等にも後半迄食いついていこうと話しかけたことを憶えている。

リーグ戦では事実、奇襲戦法で日体大から先取点を取ったり、日大・中央にはHalf Time迄は同点又は1～2点差で食い下がったものの、連盟誌の寸評通り後半に離されてしまい「魔の第3クォーター」を克服しなければとOBの方々にも泳力の強化練習を課せられた。専大・慶応の2校は我チームと実力はほぼ同じと思われたが、永年一部でプレーしている試合運びの巧さからか1～2点差で苦杯を喫した。然し、早大・法大には2回戦とも勝ち4勝10敗の6位となった。

その年で最も思い出に残るのはインカレで準決勝迄進出し、慶応と3位決定戦を行ったことである。第4クォーター残り2分に得点し3対2とリードしたものの残り45秒で同点に追いつかれそのまま試合終了となり、反則数で惜敗してしまった。

翌年は人数不足の為、水球を始めて間もないメンバーを起用せざるを得ず一部最下位、二部降格となってしまうが、2年間一部でプレー出来たことは貴重な体験であった。

又、私自身非常に嬉しかったのは2年、3年の時2年間一部リーグの得点Best 10に入れたことである。今後共、伝統ある成城の水球の灯を絶やすことのない様に現役部員諸兄の努力を期待すると共に、

我々OBとしても水泳部発展の為に微力を尽くしていく所存である。最後に現役時代御指導頂いた根岸監督初めOBの方々にこの場をお借りして御礼を申し上げたい。

55年リーグ戦 監督奮戦記

新大第13回 中山 武夫
S40年卒業

「根津！」「加藤！なんだそのプレーは！気合を入れろ！」、プール中にひびき渡る大声が成城ベンチから出る。その瞬間、レフリーが「ギクッ」とした顔で成城ベンチを振り返り、記録員も観客も敵方ベンチも驚いた様に注目する。又言ってしまった…。今日こそ黙って試合を見るはずだったのに……と後悔する。

しかし後はもう止まらない、「三瓶、祥一マークしろ！」「青木切れる！」「キーパーまだ投げるんじゃないぞ！」「竹内手をあげろ！」あとは手当りしだいに大声を出す。時には敵の選手にも具体的指示？が飛ぶ、「高山！そのシュートは3年早い！」「生意気なシュートするな！」（内心は、あのシュートを投げられると成城のキーパーじゃまず止まらなと分っているので必死である。こうなったら口でとめるしかない）。「井上そこでシュートだ！」（あの体勢で投げさせれば、キーパーの正面でまず安全だ、と思った瞬間、キーパーの根津が何を間違ったか、ゴールの外へ向って飛びあがる、ゴールイン）。「根津おまえ何考えてんだ！」（この分だと根津の方向オンチは今日中には直らないぞ）。勝っても負けても、一試合中黙っていたという思い出はない。

強敵相手にリードするともう大変だ、ベンチに味方が増える、コーチの黒田君だ、「明治なんか負けな！」と言うと、続いて「水球界の落ちこぼれ！とくる。「チビッコチームなんかやっつけろ！」と言うと、「あいつら就職ないんだぞ！」とくる。その内敗色の濃くなった相手チームの選手同志、ベンチのOB、父兄間で内ゲバがおきると、それ見たことかと徹底的にこきおろす。

従って一試合終ると、喉はカラカラ、頭クラクラという状態になる。

本当は緻密な作戦を組み、選手個々の役割を明確にし、静かにベンチに座って指揮をするつもりであったが、今の成城チームでは選手の数と、質の問題で無理だと判断した時から、自分もプールの中でプレーをしているつもりで大声を出しつづけている。私自身京都の鴨沂高校時代全国制覇三回の経験をし、今日まで20数年間の水球競技歴があるが、どの時代も充実し楽しかった。

たまたま今は戦績は良くないが、学生は現状の諸環境の中では良くやっているし、努力もしている。

あとは選手の数さえ増えれば、成城らしい個性的なチームが作れるという自信は持っている。

試合が終って、プールを後にする時、いつも考える事は、昔の強かった時の水球も、今日の水球も、みんな水球に変わりなく、あれも水球、これも水球だ。あれも人生、これも人生だということと。

又来週からの仕事で声が出せなくて困ったなという事である。



マネージャーの思い出

新大第25回
S55年卒業 坂井由美子

我が成城大学水泳部は常に部員不足に頭を悩まされましたが、毎年女子マネージャーに関しては入部希望者が後を絶たず、ピーク時にはなんと9名もいたんです(昭和54年夏)。当時男子現役選手は8名で、マネージャーの数が現役選手を上回っていました。練習の時は広いプールに少人数の選手がさびしく泳ぎ、狭いプールサイドにはマネージャーがずらりと並ん



だわけです。試合の時もマネージャー全員でプールを見おろして黄色い声援を送る姿は他大学の間でも有名でした。これだけマネージャーがいたんですから、その分男子部員のかゆい所に手が届いたことと思います。その結果練習に専念できたはずですが…。あるいはプールサイドの華やかさに目がくらんでボールを見失うこともあったかもしれません。

しかし女子マネージャーの方も人数が多いなりにたいへんでした。例えば練習中、仕事は先に気づいた者勝ちで、仕事の見つけられない人はプールサイドにただ立つばかりでした。リーグ戦が終わり富浦で行なわれる中学校の海の学校が近づくと、マネージャー達も一斉に水着姿となり遠泳に備えて泳ぎ始めます。当時はマネージャーの富浦参加人数に限りがあった為、プールで1,500米平泳ぎの試験も行な

われました。でもそのおかげで入部当時はほとんど泳げなかった女子も、無事中学校遠泳で2,000米泳ぎきったわけです。中学生と共に完泳の喜びをかみしめたことでしょう。

その他、自炊合宿で料理の腕もみがき、OB会との接触も多く気働きも覚えました。また4年間の水泳部生活で男子部員とほぼ対等の扱いを受け、そのおかげで大きい声で自己紹介もできるようになり、お酒も強くなりました。このように4年間水泳部で鍛えられた女子は、卒業後社会人として立派に役目を果していることと思います。ただ一つ気になるのは、卒業後女子マネージャーの結婚話がなかなか聞こえてこないことです。もしかすると水泳部の世界に深くつかり過ぎて、男性の本来の姿を見てしまった結果ではないでしょうか。

プールの首領

森田昌太郎さん→



水泳部員を語る

近年の水泳部を語るのに、忘れてはならない人物がいる。その名は、森田昌太郎さん。練習の始まる五月から、プールおさめの十月まで、毎日プールの管理をしながら、水泳部を影、日向なく暖かく見守り、応援していただいている。この人の評価なくしては、近年の水泳部の人物史は、半分も語りつくせない。そこで、今回は、ここ10年の仲間を、森田さんの情報と共に編集委員のメンバーで語ってみたいと思う。森田さんが、プールへこられた昭和46年頃からご紹介致そう。(敬称略)

戸田勤次 一見パンカラを思わせる顔構えの大変よ
48年卒 ろしい人。“通称 カンジ”

小平恵洋 水泳部を問わず、この人のお顔を知らない方は、「成城のもぐり」と言われても致し方ない。mr. ホームベースとして、小・高・大の水泳部に君臨。そのお人柄とプロ並の芸に影響を受けたもの多数。卒業間際には、成城狭しと、全国のブラウン管に、打って出た。人呼んで『月光仮面』

古谷生男 やさしいマスクの下にキラリと光る鋼鉄
49年卒 のような意志「隠れ女性信者を最も多く抱

えていた」というウワサもチラホラ。

坂井 謙 愛称ポブさん。古谷氏と並び、近年の水
49年卒 泳部では数少ない品の良い成城ボーイ。

吉野 洋 一見ニヒル、じつはひょうきん。この組
50年卒 み合わせで、幅広いファン層を形成。人をアッと驚かす野次や罵声は一見に値する。なぜか、メチャクチャなことをしても下から憎まれない不思議な雰囲気の人。

小竹信章 アゴ二世。2年先輩の小平氏と共通のア
50年卒 ゴを所有する怪物男。全身火傷の重傷からわずか1週間少々で立ち直った驚異のスーパーバチンコマン。

秋元アツシ ミスター花王石けん。この人にほほえ
52年卒 まれると、言いたいことがあっても、言葉を失ってしまう。マイホームパパの見本。

石塚 学 細心かつ大胆。“気くばりのすすめ”の
53年卒 モデルのような人。“オジさん”の名で親しまれた大親分。後輩からの人望厚く、一部復帰の原動力となった人。

小林 潔 愛称キーちゃん。正義感の強い真人間。
52年卒 常にチームの話題となる人。

春山 功 佐田啓二を思わせる甘いマスク。沈着冷
52年卒 静、怒りを表面に出さない名キーパー。義
理固く、数多い女性からのファンレターに
も筆まめに返事を書く人。

窪田直人 ブールの備品を壊す人。どこでも自分の
52年卒 名前を書きまくる九州男子。

尙 承 物静かな細身のプロポーション。長いま
52年卒 つげに美しい目。独特な雰囲気を持ってい
られた人。競泳専門種目はバック。

西堀栄信 黙っていれば、後輩が震え上がるおっか
53年卒 ない風貌。話をすると、カワイイ(失礼!?)
人。じつはやさしくて力持ち。現在は、水
連の審判員、一部復帰の重量フォワードの
一部を担った人。

中村正人 体操のお兄さんを思わせる体格、“竹千
53年卒 代”のような風貌で、富浦でも幅広い人気
を保ち続ける。特に中学生からの贈り物が
絶えない。

黒田克己 水泳部と言えば、この人の顔がすぐに浮
54年卒 かんてくる位のスーパースターである。天
性の技量と負けん気な性格で、近年のひと
時代を築いたと言っても過言ではない。

大石和男 人を笑わせる技量は天下一。胸のくぼ地
54年卒 に水をため、金魚を飼っているという、本
当みたいなるその話の持ち主。

三浦 誠 近年水泳部の名マネージャー。上と下の
54年卒 パイプをつなぎ合わせ、チームのムードづ
くりに大きく貢献。“天皇陛下と宍戸ジョ
の芸は一見に値する。

橋本孝明 せい肉が全くない均整のとれた美しい身
55年卒 体。ニコニコしている割には無口。テレ屋
ではにかみ屋ではあるが、風貌は、競輪の
中野浩二にも似ている。俗称アントン。

秦 聖一 おとなしそうだが、真が強い。人当たり
55年卒 の良さは部外でも評判。愛称“ハタさん”。

青木 滋 骨っぽく、義理固い。仁侠の世界を思わ
56年卒 せる風貌に酒がよく似合う男。水泳部には
数少ない「べらんめえ調」タイプの人。

加藤 厚 筋力マン小竹二世。体育会の委員長を務
56年卒 め、水泳部の地位を確保する為に、東奔西
走で活躍された人。愛称“ガンちゃん”

根津一成 “イッセイさん”と一声呼べば伊那の体
56年卒 操で応えてくれるネアカな人。水泳部のベ
ットの存在。

竹内英明 いくら練習してもやせない口ヒゲおじさ
58年卒 ん。あだ名造りの名人。

木下 枝 大学二年生まで、ほとんど笑わなかった
58年卒 というまじめな人。関係者の間ではスケベ
といううわさもチラホラ。

三瓶英典 近年の水泳部の中で、ダントツの怪力男。
58年卒

宮崎祥一 エヘヘ。超人ハルクがテレるとこの人に
58年卒 なる。漢字が読めなくて、カラオケが止ま
るといふ伝説の主。バブアからの逃亡者。

女子マネージャー

中村律子 クレオパトラの再来かと言われたほどの
人。なぜ水泳部にきたかいまだに原因不明。

伊藤美紀 気立ての良い自称“オバさん”。近年、
54年卒 女子マネージャーの中核を形造った人。富浦
へ女性戦力として、乗りこめるようになって
たのは、この人のおかげ。

江原真由美 試合の時にいつも握ってきて下さった
55年卒 特製おにぎりの味は、忘れられません。

坂井由美子 地黒と思いきやほんとうは色白な人。
55年卒 「サカ子」と呼ばれ後輩より恐れられ、
慕われていた人。

野口知真子 合宿の夜、皆んなの前で、エロ本を音
55年卒 読させられた。恥ずかしそうに命令に従う
素直な乙女。帽子が目印。愛称“チマコ”

新井伸子 通称“アラマン”。高校時代、パンを張
55年卒 っていたというウワサ。泳ぎが速く、男子
部員に恥をかかせない為に、決して皆んな
の前では泳がなかったという才女。

小川朋子 愛称“ウータン”。威勢の良いマネージ
55年卒 ャーの多い中では地味なタイプ。が思いや
りは人一倍。

小野由紀子 頭の回転が早く機転がきく仕事上手。
56年卒 アネゴ肌でしっかり屋。愛称“イモコ”

慶山千恵子 ものおじしない。他人を恐れない、男
58年卒 まさりの手際の良い活躍ぶりで、部内の雑
件をテキパキと処理していただいた女親分。
竹内主将も直接、文句は言えなかった。

平野晶子 愛称“マサコ”。陽気なようで、実は繊
58年卒 細。他校にまでファンクラブができたとい
う不思議な魅力の持ち主。

年度	監部 督長	部	員	◎キャプテン	△マネージャー
5	高松 三二	高 校	3年 三橋達郎、鈴木忠夫、真野国夫 2年 白井誠、長興俊一、河野貞二 1年 中村徹雄、佐々間泰三、深水正朝、白山道成		
6	高松 三二 鈴木 忠夫 真野 国夫	高 校	3年 白井誠、長興俊一、河野貞二、杉浦紀雄 2年 深水正朝、長興謙二、佐々間泰三、中村徹雄、白山道成 1年 鈴木勝太郎、姉齒二郎、内丸正三、寺中廉		
		専常科	4年 河野貞三、齊藤 祐、酒卷敏雄 3年 吉沢利正、守田讓二、岡見如雪、大西真博 2年 鈴木二郎、深水正保、山口宗樹、伊藤泰二、中村俊平 1年		
7	高松 三二 長興 俊	高 校	3年 笠原泰三、深水正朝、長興謙二、中村徹雄 2年 鈴木勝太郎、姉齒仁郎、内丸正三、寺中廉、河野貞三、 1年 河村秀利、波多野雄二郎、森清、酒卷敏雄		
		専常科	4年 大西 博、守田讓二 3年 鈴木二郎、山口宗樹、深水正保、馬杉亮、倉上、中村俊平 2年 柴田正和 伊藤泰二 1年 鈴木三郎、森美秀		
8	高松 三二 中村 徹雄	高 校	3年 鈴木勝太郎、姉齒仁郎、内丸正三、寺中廉、河野貞三 2年 河村秀利、波多野雄二郎、森清、酒卷敏雄、館野栄一 1年 長興三郎、吉沢正利、大西真博		
		専常科	4年 鈴木二郎、山口宗樹、伊藤泰二、深水正保、中村俊平、神田巳季男 那須明 3年 清水君一、柴田正和、伊藤泰二 2年 森美秀、竹尾快助、鈴木三郎		

興津臨海学校 期間(7/16日~30日) 興津守谷に3軒の水泳合宿所完成(のちの浩然荘)
全国高校水上競技大会東部予選 期間(7/26日~7/27日)

成城高校対東京高校尋常科水上競技大会(6/30)
第4回全国高校水上競技大会東部予選 期日7/25日~7/26日
興津臨海学校 期日 7/18日~7/30日
第2回校内水上競技大会 期日 9/11日~9/12日
第10回東京学生水上競技大会 期日 9/18日~20日

第5回 全国高校水上選手権大会東部予選出場(記録なし)
第3回 水上大運動会(9月16日、17日)
第11回 関東学生水上競技大会(9月23~25日)
興津臨海学校 期間 7/16日~7/29日

第6回全国高校水上競技大会東部予選出場(記録なし)
本年より全国高校水球競技大会が開催され関東代表に
一高と共に選ばれ決勝にて一高に敗る
第一回関東七年制高校水場競技大会(9月9日~10日)
第12回関東学生水上競技大会(9月15日~17日)

年度	監 部 督 長	部 員
9	高松 三二 鈴木勝太郎	<p>高 校</p> <p>3年 河村秀利、波多野雄二郎、森 清、酒巻敏雄、竹尾達志、[△]館野栄一</p> <p>2年 長興三郎、大西真博</p> <p>1年 中村俊平、守田讓二、那須 明、那須一弥</p> <p>尋常科</p> <p>4年 山口宗樹、神田己季男、深水正保、柴田正和、伊藤泰二</p> <p>3年 竹尾快助、森 美秀</p> <p>2年 山口八郎、守田謙三、木村和一郎、右島春彦(旧雨宮)</p> <p>1年</p>
10	高松 三二 中村 徹雄 寺中 廉 河村 秀利 波多野 雄二郎 館野 栄一	<p>高 校</p> <p>3年 長興三郎、[◎]大西真博</p> <p>2年 中村俊平、守田讓二、那須 明、那須一弥、大野健二、村上静雄、</p> <p>1年 山口宗樹、神田己季男、深水正保、柴田正和、伊藤泰二、平岡邦允、竹村貞雄</p> <p>尋常科</p> <p>4年 竹尾快助、森 美秀、大場景雄</p> <p>3年 山口八郎、守田謙三、木村和一郎、右島春彦(旧雨宮)</p> <p>2年 浜田 収、穗坂博明、内山四郎</p> <p>1年 丹沢章浩、君塚英男、八尋 章</p>
11	高松 三二 河村 秀利 波多野 雄二郎 館野 栄一	<p>高 校[◎]</p> <p>3年 中村俊平、守田讓二、那須一弥、大西真博、大野健二</p> <p>2年 [△]山口宗樹、神田己季男、深水正保、伊藤泰二、平岡邦允、柴田正和、伊藤和年、[△]竹村貞雄、松本 剛</p> <p>1年 竹尾快助、森 美秀、入部辰市、山口龍雄</p> <p>尋常科</p> <p>4年 山口八郎、守田謙三、木村和一郎、右島春彦(旧雨宮)</p> <p>3年 浜田 収、穗坂博明、内山四郎</p> <p>2年 丹沢章浩、君塚英男、賀川純基、八尋 章、浅田忠平</p> <p>1年 久保田茂(旧高木)、市川鉄也、中村徳平、中村泰吉</p>
12	高松 三二 鈴木勝太郎 中村 俊平	<p>高 校[◎]</p> <p>3年 [△]山口宗樹、神田己季男、竹村貞雄、深水正保、平岡邦允、柴田正和、伊藤泰二</p> <p>2年 竹尾快助、入部辰市、森 美秀、永野錠二</p> <p>1年 山口八郎、木村和一郎、森田謙三、右島春彦(旧雨宮)</p> <p>尋常科</p> <p>4年 浜田 収、松浦英夫、内山四郎、穗坂博明</p> <p>3年 丹沢章浩、君塚英男、</p> <p>2年 賀川純基、八尋 章、浅田忠平、下河辺誠、福島</p> <p>1年 久保田茂(旧高木)、市川鉄也、中村徳平、中村泰吉、館 和彦、中原 哲 小林 高橋</p>

主 な 出 来 事

試 合 成 績

第7回全国高校水上競技大会東部予選出場	記録なし	
第2回関東7年制高校水上競技大会 於成城プール(9月8～9日)		
第2回関東7年制水球リーグ戦(7月16日～28日)	成城優勝	
第4回水上運動会(9月13日)		
第13回全国学生水上競技大会(9月14日～16日)		
第10回関東学生水球リーグ2部に出場	5月29日～6月4日	
第8回全国高等学校水上競技大会東部予選出場	7月25日～27日	水球は静高に敗退
第3回関東7年制水上競技大会(於府立プール)	9月7日～8日	水球リーグ3年連続優勝
第5回水上運動会(9月14日)		
第14回関東学生水上競技大会		
第11回関東学生水球リーグ出場		
第9回全国高校水上競技大会東部予選出場 於 東大プール		
第10回全国高校水上競技大会東部予選出場		
第12回関東学生水球大会 3部リーグ出場	5月22日～6月19日	3勝5敗
第5回7年制高校水上競技大会(9月4日～5日)	成績不詳	
第16回関東学生水上競技大会第3部 於神宮プール (9月10日～12日)	第3部 4位	
校友会としての年度予算661円56銭		

年度	監 部 督 長	部 員
13	小野嘉寿男 鈴木勝太郎 中村俊平	<p>高 校</p> <p>◎</p> <p>3年 竹尾快助、入部辰市、森 美秀</p> <p>△</p> <p>2年 山口八郎、守田謙三、木村和一郎、右島春彦(旧雨宮)、稲木俊男</p> <p>1年 松浦英夫、中村勝秀、浜田 収、穂坂博明、内山四郎</p> <p>専常科</p> <p>4年 丹沢章浩、君塚英男、賀川純基</p> <p>3年 守田志郎、八尋章</p> <p>2年 久保田茂(旧高木)、館 和彦、市川鉄也、中村徳平、中村泰吉、浅田忠平 遠藤明</p> <p>1年 八尋 章、長島良一、清水 洗</p>
14	小野嘉寿男 鈴木勝太郎 竹尾 快助	<p>高 校</p> <p>◎</p> <p>3年 山口八郎、守田謙三、木村和一郎、須賀重興</p> <p>2年 松浦英夫、中村勝秀、浜田 収、穂坂博明、内山四郎、雨宮春彦</p> <p>1年 丹沢章浩、君塚英男、川越 敬、松前建男</p> <p>専常科</p> <p>4年 山口衛一、青柳省三、守田志郎、河井 栄、木村</p> <p>3年 久保田茂(旧高木)、中村徳平、中村泰吉、浅田忠平</p> <p>2年 八尋 章、長島良一、</p> <p>1年 小沢貞一郎、伊予田敏雄、平野卓弥、上野孝人、金子 巴</p>
15	白井 毅 山口 八郎 守田 謙三	<p>高 校</p> <p>◎</p> <p>3年 松浦英夫、浜田 収、穂坂博明、内山四郎、△中村勝秀</p> <p>2年 丹沢章浩、君塚英男、松前建男、木村慶二</p> <p>1年 河井 栄、加藤保幸</p> <p>専常科</p> <p>◎</p> <p>4年 久保田茂(旧高木)、中村徳平、中村康吉、館 和彦、遠藤 明、浅田忠平</p> <p>3年 八尋 章、長島良一、清水 洗、篠沢公平</p> <p>2年 小沢貞一郎、伊予田敏雄、平野卓弥、上野孝人、金子 巴、穂坂俊明、渡辺 修、</p> <p>1年 村瀬泰一、田中義昭、平子 良、中井陽作、平出照道、福田龍三、山本 勝、 会田 豊、天野誠夫、山下大四郎、</p>
16	森 源太郎 丹沢 章浩	<p>高 校</p> <p>◎</p> <p>3年 丹沢章浩、君塚英男、松前建男、右島春彦(旧雨宮)、内山四郎</p> <p>2年 河井 栄、加藤保幸、守田志郎、</p> <p>1年 久保田茂(旧高木)、中村康吉、館 和彦、遠藤 明、浅田忠平</p> <p>専常科</p> <p>4年 長島良一、篠沢公平、市川鉄也、八尋章</p> <p>3年 小沢貞一郎、平野卓弥、上野孝人、金子 巴、山田寿一、渡辺 修</p> <p>2年 村瀬泰一、田中義昭、平子 良、中井陽作、平出照道、福田龍三、山本 勝 会田 豊、天野誠夫、山下大四郎、</p> <p>1年 村瀬竜也、若林 喬、植村 秀、入来重雄</p>

主 な 出 来 事

試 合 成 績

第12回関東学生水球大会 第3部出場	3部優勝 優勝決定戦 対中大
第11回全国高等学校水上競技大会 東部予選	第2位となる
全国大会(於 京都)	第6位
第6回関東7年制水上競技大会(於 成城)	第2位 72点 東京高校優勝
第17回関東学生水上競技大会(9月9日～11日)	第2部にて2位となり1部へ昇格
竹尾快助 東京オリンピックCクラス候補に選ばれる	50点獲得

関東インターハイ 第7位 15点
 インターハイ合宿 於三友寮(7月8日～7月19日)

全国高等学校水上競技大会 東部予選
 第8回関東7年制水上競技大会 於学習院 高校第4位 尋常科 第2位
 関東学生選手権大会
 その他いくつかの対抗試合

関東7年制高校尋常科低学年大会(於 成蹊プール) 優勝

	監 部 督 長	部 員
17	丹沢 章浩	高 校 3年 加藤保幸、賀川純甚、守田志郎、河井 栄 2年 久保田茂(旧高木)、中村康吉、館 和彦、遠藤 明、 1年 八尋 章、市川鉄也、長島良一 専常科 4年 小沢貞一郎、渡辺 修 3年 村瀬泰一、平子 良、中井陽作、平出照道、福田龍三、会田 豊、天野誠夫、 金子 巴、山田寿一、津田淳一、上野孝人、平野卓弥 2年 村瀬竜也、若林 喬、植村 秀、渡辺和彦 1年 村瀬友三郎、新井倫夫、平出慶道、小畑 明、南 正保
18	丹沢 章浩	高 校 3年 久保田茂(旧高木)、中村康吉 2年 八尋章、市川鉄也、長島良一 1年 小沢貞一郎、松村一夫、袴田文治、坂本 専常科 4年 山田寿一、福田龍三、村瀬泰一、山本勝、田中義昭、会田豊、中井陽作、平子良 上野孝人、津田淳一、平野卓弥 3年 村瀬竜也、若林 喬、植村 秀 2年 村瀬友三郎、新井倫夫、平出慶道、小畑 明、南 正保 1年 入来重則、立川慶男、富田公也、北村雄生、田島直季
19	星野 慎一	高 校 3年 市川鉄也、長島良一、八尋 章、中村徳平 2年 小沢貞一郎、渡辺 修、袴田文治、松村一夫、坂本 1年 山田寿一、福田龍三、村瀬泰一、会田 豊、田中義昭、中井陽作、玉置 至、 平子 良、津田淳一、平野 卓、平出照道、上野孝一、山本 勝、南正保、天野誠 専常科 4年 村瀬龍也、若林 喬、植村 秀 3年 村瀬友三郎、小畑 明、山崎光郎、新井倫夫 2年 立川慶男、富田公也、北村雄生、田島直季 入来重則 1年 平子叔男、津田謙二、村瀬 功、桑野英彦、森 洋、岡田良元、岡田良二、武富礼 二、平山慶道、立花幸一
20		高 校 3年 2年 山田寿一、福田龍三、村瀬泰一、平出照道、田中義昭、南正寿、平子良、津田淳一、 中井陽作、高橋和夫、玉置至、金子、天野誠夫、平野卓、会田豊、上野孝人、 1年 村瀬竜也、山本勝、若林喬、奥田四郎、植村秀 専常科 4年 村瀬友三郎、小畑明、平出慶道、山崎光郎、新井倫夫 入来重雄 3年 田島直季、北村雄生、南正保、立川慶男、富田公生、入来重則 2年 平子叔男、津田謙二、村瀬功、岡田良元、森洋、武富礼二、平山慶道 1年 寺田正明、上原義洋、市毛弘文、門田強、石田直樹

主 な 出 来 事

試 合 成 績

関東7年制高校尋常科（於 東高プール）

優勝

関東7年制高校尋常科（於 成城プール）

優勝

旧制高校2年で卒業

関東7年制高校（於 成城プール）

高校優勝

年度	顧 門 監 督	部 員
21	星野 慎一 丹沢 浩章 小沢貞一郎	<p>◎キャプテン △マネージャー</p> <p>高 校 3年 山田寿一、福田龍三、村瀬泰一、平出照道、田中義昭、南 正寿、平子 良、津田淳一、中井陽作、高橋和男、玉置 至、金子 巴 2年 山本 勝、村瀬竜也、若林 喬、森川 亮、奥田四郎、植村 秀、会田 豊 1年 村瀬友三郎、小畑 明、平出慶道、山崎光郎、新井倫夫、南 正保 入来重雄</p> <p>尋常科 4年 田島直季、北村雄生 3年 平子叔男、津田謙二、村瀬 功、岡田良元、桑野英彦、森 洋、武富礼二、平出慶道 2年 寺田正明、上原義洋、市毛弘文、門田 強、石田直樹 1年 町田好美、西瀧直澄</p>
22		<p>高 校 3年 山本勝、村瀬龍也、若林喬、森川亮、若林 喬、奥田四郎 2年 村瀬友三郎、南正保、新井倫夫、会田豊、小畑明、山崎光郎 1年 北村雄生、田島直季、立川慶男、入来重雄</p>
23	村瀬 龍也	<p>高 校 3年 村瀬友三郎、森川亮、新井倫夫、南正保、小畑明、会田豊、山崎光郎、渡辺修 2年 北村雄生、富田公也、田島直季、立川慶男、入来重雄 1年 岡田良元、津田謙二、村瀬功、平子叔男、森 洋、桑野英彦、岡田良二、武富礼二</p>

全国旧制高校（京都三高プール）

終戦の翌年でインターハイが復活し東部大会では東高優勝、成城2位で全国大会（京都）に出場し優勝した。京都には、小沢貞一郎氏が監督で来る。我々の同級生（旧高第19回）で前衆議院議員共産党中路雅弘氏（京都出身）が京都を案内してくれた。

関東7年制高校（於 成蹊プール）

優勝

全国高等学校水泳選手権大会競技メンバー

800米リレー 村瀬（泰）、山田、平子、田中
 300米メドレーリレー（背泳）中井、（平泳）
 福田、（自由型）村瀬（泰）

100米自由形 村瀬（泰）、山田

400米自由形 村瀬（泰）、山田

800米自由形 田中、平子

200米平泳 福田、山本（勝）

100米背泳 中井、小畑

高校 優勝

水球

インターハイ関東大会 第二位

インターハイ全国大会 第二位

水球

関東学生リーグ 二部優勝

インターハイ関東大会 優勝

インターハイ全国大会 第二位

競泳

インターハイ関東大会 第三位

七年制高校 優勝

年度	監督・コーチ	部 員	◎ キャプテン △ マネージャー
26	白井 毅	4年 3年 富田公也 2年 岡田良元 村瀬功 森 洋 入来重雄 1年 石田直樹 上原義洋 金井正之	
27		4年 富田公也 3年 岡田良元 村瀬功 森 洋 入来重雄 2年 石田直樹 上原義洋 金井正之 1年 沼山昭男	
28	南 正保	4年 岡田良元 森 洋 村瀬 功 3年 石田直樹 上原義洋 金井正之 2年 沼山昭男 1年 罇宏美 山田弘重 金井六三郎	
29		4年 上原義洋 石田直樹 金井正之 3年 沼山昭男 2年 罇宏美 金井六三郎 山田弘重 四宮義明 1年	
30	斉藤 正 村瀬友三郎	4年 沼山昭夫 3年 罇宏美 四宮義明 山田弘重 金井六三郎 松石正治 栗原 実 伊藤 2年 鈴木芳郎 石橋慶憲 1年 阿部武彦 堀正美 山本勉 森雪雄 脇村英敏 安山毅 安藤	
31	村瀬友三郎 岡田良元 森 洋	4年 罇宏美 △金井六三郎 山田弘重 四宮義明 3年 鈴木芳郎 石橋慶憲 2年 阿部武彦 堀正美 山本勉 森雪雄 安山毅 脇村英敏 1年 桑原和司 安井昌平	
32	村瀬友三郎	4年 鈴木芳郎 石橋慶憲 3年 阿部武彦 堀正美 山本勉 △安山毅 森雪雄 脇村英敏 2年 桑原和司 安井昌平 1年 本政信 壇野広司 高橋璋行 岡本浩三 松野雄磨 柴山松秀 永山勉 沢井謙爾	
33	村瀬友三郎	4年 阿部武彦 堀正美 山本勉 安山毅 森雪雄 脇村英敏 3年 桑原和司 △安井昌平 2年 本政信 壇野広司 高橋璋行 松野雄磨 柴山松秀 永山勉 沢井謙爾 1年 村上順三 篠原欣一 前田博史 中村徳彦	

成績 (水球)

(競泳)

四大学

関東学生リーグ戦 全日本学生選手権 全日本選手権 その他の試合

水球 競泳

2部 2位

1位 2位

2部 2位

3位

2部 2位

2部 1位

神戸 甲南大学と定期戦
始まる

3位

入替戦 対学習院
8対4 1部へ

1部 4位

3位

1位 3位

1部 3位

2位 対中央
6対5

3位

関東学生
競泳2部で準優勝1部へ

1位 3位

1部 3位

1位

2位

1位 2位

年度	監督・コーチ	部	員	◎キャプテン △マネージャー
34	村瀬友三郎	4年	◎桑原和司 安井昌平	
		3年	本政信 壇野広司 岡本浩三 高橋璋行 柴山松秀 松野雄磨 永山勉 沢井謙爾	
		2年	村上順上 篠原欣一 前田博史 中村徳彦	
		1年	◎桑原重治 有馬貴夫 向山敏重 広瀬俊之	
35	村瀬友三郎 岡田良元 森 洋	4年	◎本政信 沢井謙爾 △山勉 岡本浩三 △高橋璋行 壇野広司 松野雄磨 沢井謙爾	
		3年	村上順三 中村徳彦 篠原欣一 前田博史	
		2年	広瀬俊之 有馬貴夫 向山敏重 桑原重治	
		1年	中田晃 高岸正一	
36	村瀬友三郎	4年	◎村上順三 中村徳彦 篠原欣一 前田博史	
		3年	桑原重治 広瀬俊之 向山敏重 有馬貴夫	
		2年	中田晃 高岸正一	
		1年	中山武夫 正岡勝 松本周蔵 永山光春	
37	阿部武彦	4年	◎桑原重治 広瀬俊之 向山敏重 有馬貴夫	
		3年	中田晃 高岸正一	
		2年	中山武夫 永山光春 松本周蔵	
		1年	古屋博敏 長谷川勝 根岸繁雄 麻植康男 山本慶治郎	
38	阿部武彦	4年	中田晃 高岸正一	
		3年	◎中山武夫 正岡勝 永山光春 松本周蔵	
		2年	△長谷川勝 根岸繁雄 麻植康男 山本慶治郎 古屋博敏	
		1年	△福谷芳武 浜口義勝 桑原征平 石渡昇 笹瀬成二 浅井輝雄 藤沢靖弘 佐藤奉二 草木	
39	金井六三郎 山本 勉	4年	◎中山武夫 正岡勝 永山光春 松本周蔵	
		3年	長谷川勝 根岸繁雄 麻植康男 山本慶治郎 古屋博敏	
		2年	浜口義勝 桑原征平 石渡昇 笹瀬成二 浅井輝雄 藤沢靖弘 佐藤奉二 △福谷芳武	
		1年		
40	山本 勉	4年	◎長谷川勝 根岸繁雄 麻植康男 山本慶治郎	
		3年	△福谷芳武 浜口義勝 石渡昇 笹瀬成二 浅井輝雄 藤沢靖弘 桑原征平 佐藤奉二	
		2年		
		1年	佐々田建治 長谷部弘美 山田裕二	
41	山本 勉 森 洋	4年	◎浜口義勝 △福谷芳武 桑原征平 石渡昇 笹瀬成二 浅井輝雄 藤沢靖弘 佐藤奉二	
		3年		
		2年	佐々田建治 長谷部弘美 山田裕二	
		1年	西村正憲 田原藤之助 萩原信一 柏野健人	

成 績 (水 球)				(競 泳)	四大学	
関東学生リーグ戦	全日本学生選手権	全日本選手権	その他の試合		水球	競泳
1部 4位	3位	3位			1位	1位
1部 1位	2位	2位			1位	1位
1部 5位	ベスト8	五八クラブに 6対4で敗退				
1部 3位	4位				1位	1位
1部 4位	4位		関東学生	2部 1位	1位	1位
1部 2位 早大と引分け	3位			1部	1位	1位
1部 5位	3位		新人戦 2位 室内選手権 3位		1位	1位
1部 6位 入替戦で2部へ					1位	2位

年度	監督・コーチ	部 員	◎キャプテン △マネージャー
42	山本 健	3年 ◎佐々田建治 長谷部弘美 △山田裕二 2年 西村正憲 田原藤之助 萩原信一 柏野健人 1年 浜口裕俊	
43	山本 健	4年 ◎佐々田建治 長谷部弘美 △山田裕二 3年 西村正憲 田原藤之助 萩原信一 柏野健人 2年 浜口裕俊 1年 西脇勘次 小平恵洋 野田耕太郎	
44	山本 勉 阿部武彦 根岸繁雄	4年 ◎西村正憲 田原藤之助 萩原信一 柏野健人 3年 浜口裕俊 2年 西脇勘次 △小平恵洋 野田耕太郎 1年 古谷生男 坂井謙	
45	阿部武彦 山本 勉 大野奉二	4年 ◎浜口裕俊 3年 西脇勘次 △小平恵洋 野田耕太郎 2年 古谷生男 坂井謙 1年 吉野洋 小竹信章 奥滝明夫	
46	正岡 勝 山本 勉 根岸繁雄	4年 ◎西脇勘次 △小平恵洋 3年 古谷生男 坂井謙 2年 吉野洋 小竹信章 石井俊成 亀田 河原田 1年 秋元アツシ	
47	正岡 勝 山本 勉 根岸繁雄	4年 ◎古谷生男 坂井謙 3年 吉野洋 小竹信章 石井俊成 亀田 河原田 2年 △秋元アツシ 1年	
48	正岡 勝 山本 勉 根岸繁雄 柏野健人	4年 ◎吉野洋 小竹信章 石井俊成 亀田 河原田 3年 △秋元アツシ 2年 1年 石塚学 春山功 池上潔 窪田直人 尚承	
49	根岸繁雄 正岡 勝 山本 勉 柏野健人	4年 △秋元アツシ 3年 ◎石塚学 池上潔 春山功 窪田直人 尚承 2年 1年 西堀栄信 中村正人 高田実和雄 松田英成	
50	根岸繁雄	4 △秋元アツシ	

成 績 (水 球)				(競 泳)		四 大 学	
関 東 学 生 リ ー グ 戦	全 日 本 学 生 選 手 権	全 日 本 選 手 権	そ の 他 の 試 合	水 球	競 泳	水 球	競 泳
2 部	2 位					1 位	2 位
2 部	3 位	12位				1 位	2 位
2 部	1 位	ベスト 8				1 位	2 位
入替戦 対明治							
1 部へ							
1 部	6 位	ベスト 8					
入替戦							
2 部へ							
2 部	2 位					1 位	
2 部	2 位						
2 部	2 位					1 位	
2 部	1 位					1 位	
入替戦							
1 勝 2 敗							
2 部	1 位						
入替戦 対教育大							
1 部へ							

年度	監督・コーチ	部	員	◎ キャプテン △ マネージャー
50	正岡 勝 山本 勉	3年	◎ 石塚学 池上潔 春山功 窪田直人 尚承	
		2年	西堀栄信 中村正人 松田英成	
		1年	黒田克己 大石和男 三浦誠 西山和年 伊藤美紀	△
51	根岸繁雄 山本 勉 正岡 勝	4年	◎ 石塚学 池上潔 春山功 窪田直人 尚承	
		3年	西堀栄信 中村正人	
		2年	黒田克己 大石和男 三浦誠 伊藤美紀	△
		1年	橋本孝明 秦聖一 坂井由美子 野口知真子	△
52	根岸繁雄 山本 勉 正岡 勝	4年	◎ 西堀栄信 中村正人	
		3年	黒田克己 大石和男 三浦誠 伊藤美紀	△
		2年	橋本孝明 秦聖一 坂井由美子 野口知真子	△
		1年	根津一成 小野由紀子	
53	根岸繁雄 山本 勉	4年	◎ 黒田克己 大石和男 三浦誠 西山和年 伊藤美紀	△
		3年	橋本孝明 秦聖一 坂井由美子 野口知真子	△
		2年	青木滋 加藤厚 根津一成 小野由紀子	△
		1年	相馬聡 斉藤隆一 新井伸子 小川朋子 江原真由美	△
54	中山武夫 山本 勉	4年	◎ 橋本孝明 秦聖一 坂井由美子 野口知真子	△
		3年	青木滋 加藤厚 根津一成 小野由紀子	△
		2年	新井伸子 小川朋子 江原真由美	△
		1年	竹内英明 木下技 三瓶英典 宮崎祥一 慶山千恵子 平野晶子	△
55	中山武夫 山本 勉	4年	◎ 青木滋 加藤厚 根津一成 小野由紀子	△
		3年		
		2年	竹内英明 木下技 三瓶英典 宮崎祥一 慶山千恵子 平野晶子	△
		1年	山本貴 松沢直輝 阿部昭彦	
56	根岸繁雄	4年	◎	
		3年	竹内英明 木下技 三瓶英明 宮崎祥一 慶山千恵子 平野晶子	△
		2年	山本貴 松沢直輝 阿部昭彦	
		1年	山口章 吉本克之 中尾容子 田尾晴美	△
57	根岸繁雄	4年	◎ 竹内英明 木下技 三瓶英明 宮崎祥一 慶山千恵子 平野晶子	△
		3年	山本貴 松沢直輝 阿部昭彦	
		2年	山口章 吉本克之 中尾容子 田尾晴美	△
		1年	安藤高 岡部一男	
58	山本 勉	4年	◎ 山本貴 松沢直輝 阿部昭彦	△
		3年	山口章 吉本克之 中尾容子 田尾晴美	△
		2年	安藤高 岡部一男	
		1年	三瓶顕史 風間聖彦 桜井英一 大村由美	

成 績 (水 球)

(競 泳)

四 大 学

関東学生リーグ戦 全日本学生選手権 全日本選手権 その他の試合

水球 競泳

1 部	6 位	4 位	ベスト16	1 位	1 位
1 部	8 位	ベスト16		1 位	2 位
入替戦					
2 部へ					
2 部	7 位	ベスト16		2 位	2 位
入替戦	対東工大				
2 部	6 位		12月グアム島遠征	3 位	2 位
2 部	4 位			1 位	2 位
2 部	6 位			1 位	1 位
2 部	3 位			1 位	1 位
2 部	7 位			3 位	3 位
入替戦	一橋・学習院	3 部へ			

成城水泳会のおいたち

旧高第3回 鈴木忠夫
S6年卒業

成城水泳部が昭和五年設立され我々3年生は翌昭和6年3月卒業した。が漸く出来上った水泳部のことが昼夜頭から離れず幸い私は東京に居ったので真野・三橋からも頼まれ先生や水泳部員と交渉をもち水泳部では監督として興津ではコーチとしてその他いろいろの問題の相談を受けていた。そして昭和8年になり私は成城水泳会設立を思いついた。当時は先輩も少く水球部の先生部員もそうたくさんでなく一家族のようであったのでOBを中心とした水泳部関係の先生と水泳部員で会を設立した。その時の規約は下記の通りであり先生も会の一員であったので会長には水泳部長になってもらった。

1. 本会は成城水泳会と称す
1. 本会は成城水泳部の発展及会員相互の親睦をはかるを目的とす。
1. 本会は左に掲ぐる者を以て組織す
 - (1)成城水泳部先輩
 - (2)成城水泳部員
 - (3)成城水泳部に関係ある職員
1. 本会の本部事務所を理事長宛に置き支部を京都、東北、九州に置く。
1. 本会に左の役員を置く。
会長 1名 理事長 1名 理事 4名
会計 1名 地方理事各支部 1名
1. 会長は成城水泳部長を推戴す
1. 理事長は水泳部先輩よりこれを互選す
理事4名のうち2名は水泳部生輩よりこれを互選す。
理事4名のうち2名は水泳部部員よりこれを互選す
- 会計は水泳部先輩よりこれを互選す
地方理事は各支部より1名これを互選す
1. 会長は会務を総覧す
1. 理事長は会長を補佐し会務を処理す
1. 理事は本会の重要事項を協議す
地方理事は本部との連絡を保ち地方の事務を処理す

役員の任期は1年とす重任をさまたげず補綴者の任期は前任者の残任期によるものとす

1. 本会は年一回総会を開き次の事項を行う
 - (1)会務の報告、(2)会計の報告 (3)役員の選挙
 - (4)議事
1. 本会の資金
1. 本会の会計は会計之を処理し理事之を監督す。

附記本会の会則は総会の決議によらざればこれを改廃することを得ずかつ出席人員会員の3分の2以上たるを要す

その時の役員

会長 高松先生 顧問 内田先生 森先生
理事長 鈴木忠夫
理事 三橋連郎 中村徹雄 鈴木勝太郎
森 清

(会計) 河野貞二

(京都) 長興俊一 (九州) 笠原泰三 (東北) 白井 誠

我々は先輩として、プール修理の問題や興津の器具の不足などについても、出来る限りの援助をして来たし、当時は水泳部の先生方とも全ての問題にとりくんだのをおぼえている。

昭和10年7月14日水泳会総会を開催したと日記に書かれてある。昭和12年1月私が入賞したがその年7月18日総会12月11日臨時総会を開催し従来規約を廃し新たな規約をつくっている。今迄と大きく違うのは地方理事を廃し理事を6名としその内2名を水泳部員から互選すると云うことであった。

その時の役員

会長高松先生 顧問内田先生・小野先生・森先生
白井先生

理事長 鈴木忠夫

理事 長興俊一、鈴木勝太郎、中村徹雄、館ヶ栄一、中村俊年、山口宗樹

この臨時総会の時、プールも建設以来7年の歳月が流れた。4~5年前より破損箇所を生じ今のうちに手を加へなくては、手におへなくなる状態になろうと、高松先生をはじめ諸先生現部員と相談の上、修理箇所をプールの縁、桓根、井戸と3つにした。

が桓根は来年度学校で修理されるし、井戸も修理出来ない時は第2計画として明後年に予定されるので、我々はプールの緑の修理を来年度の主目標とした。その費用1,000円の集金を約束し、一人一口10円を集めました。当時の主将中村俊平君より部員も一人10円出すと私に報告がされた。今から思えば、皆が一体になった当時が目に見える。そうして集った金もその後、井戸を掘ることが先決であるとの学校の方針によりその方に廻されてしまった。昭和13年水泳部長に小野先生がなられました関係で、会長もひきうけていただきました。

会長 小野先生 顧問 高松先生・内田先生
森先生・白井先生

理事長 鈴木忠夫

理事 鈴木勝太郎 館野栄一 中村徹雄 山口宗樹
竹尾快助 山口八郎

昭和15年水泳部も創立以来10年の歳月を迎へた。水泳部も小野先生から白井先生に水泳部長が変り役員も次の如くになった。

会長 白井先生

理事長 鈴木忠夫

理事 長興俊一 酒巻敏雄 竹尾快助 須賀重興
浜田収 丹沢章浩

競泳コーチ 白井誠 竹尾快助 興津コーチ 酒巻敏雄 山口宗樹

昭和17年、水泳会名簿を出しているその間も理事会を開き、学校水泳部と緊密な連絡をとって来た。だが、支那事変もはげしくなるにつれとだえがちになって来た。私は昭和4年から、興津夏季学校にコーチとして、毎年行っていた。戦争の拡大と共に軍務に服する様になり、昭和16年、興津夏季学校も中止となった昭和17年に一時再開されたがその後は再び中止となった。

大東亜戦争激烈となるにつれ、水泳部先輩も戦地にかりだされ、帰らぬ人となった友も多くを数えるに至った。終戦後、各人それぞれ苦しい生活を強いられ、お互いの連絡もとれないまま、その機能も一時中止状態であった。

私も昭和27年頃からの日記で、森先生と会ったり、水泳部のこと、水泳会のことを考へていた。昭和35年、世情も落ちつき、先輩の数も多くなり、連絡もとれて来たので、組織を新しくして会則を変更し、再出発を考へた。当時、水泳部の世話をし

ていた鱒君と連絡をとり、成城水泳会の新しい会則案を作成した。発起人として私、中村徹雄、鈴木勝太郎、森清、山口宗樹、丹澤章浩、村瀬泰一、村瀬友三郎、岡田良元、鱒宏美、阿部武彦、安井昌平がなり、各先輩に発送し、3月13日総会で次の会則が決り役員が決定した。

第一章 総則

第1条 本会は成城水泳会と称する。

第2条 本会は成城学園水泳部の健全なる発展と会員相互の親睦をはかる。

第3条 本会はその目的達成のため次の事業を行う。

- (1) 指導及研究
- (2) 会報及名簿の発行
- (3) 集合
- (4) その他本会目的達成に必要な事項

第4条 本会員の資格を次の通りとする。

- (1) OB会員—旧制成城高等学校、成城学園高等学校、成城大学水泳部員たりしもの
- (2) 現役部員成城水泳部員
- (3) 名誉会員—成城水泳部に関係深く、理事会が推選し、総会の決議により承認されたもの

第二章 役員

第5条 本会に左の役員をおく

- (1) 会長 1名
- (2) 理事 10名以上

第6条 前条の役員は、定時総会にて選任する

第7条 役員任期は1ケ年とする。但し重任をさまたげない。

第8条 会長は本会を代表し会員を統轄する。

第三章 運営

第9条 理事会は会長理事を以て組織し、本会目的遂行に必要な事項を議決する。

第10条 理事会の互選により、常盤理事若干名、会計理事1名を選出する。

第11条 常務理事は理事会の議決に従い常務を処理する。

第12条 総会は年1回招集する。会長が必要を認め時、臨時総会を招集することが出来る。

第13条 総会に於ては次の事項を議決する。

- (1) 議員会の承認
- (2) 役員を選出

(3) 事業報告

第四章 会計

第14条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。

第15条 本会の経費は会費寄附金、その他の諸収入による。

第16条 会員外の寄附金その他の諸収入の受領の可否は理事会で決定する。

第17条 本会の支出は理事会の協議を必要とする。但し、緊急を要する通常の運営費の支出については、事後理事会に報告し、その承認を求める。

第18条 会計は新会計年度より60日以内に毎年会費を納入する。

第五章 附則

第19条 本規則に疑義を生じた時は理事会の議決を経て会長が裁定する。

第20条 本規則の改廃は総会出席のOB会員三分の二以上の賛成を得られなければならない。

第21条 本会の連絡先は、世田谷区成城町708成城学園事務所気付成城水泳会とする。

第22条 本規則は昭和35年4月1日より実施する。

役員

会長 鈴木忠夫 常務理事 村瀬友三郎

会計理事 山口宗樹

理事 中村徹雄、鈴木勝太郎、森清、守田譲二
丹沢章浩、玉置至、岡田良之、鱒宏実
阿部武彦、高橋璋、

名誉会員

妹尾一三、高松三二、小野嘉寿男、白井毅

小宮 邑、内田昇三、斉藤 正、森源太郎

十文字美博

以上の様に役員も決められ、次いで水泳会名簿も発行され活動をはじめた。私の日記では、昭和36年37年と理事会が随時開かれており昭和38年7月14日総会がもたれて居る。私は37年より大阪勤務となり、常時は東京に居らなかった。その間先輩や現役との連絡をとってくれる人もいないまま年月が過ぎた。次第に先輩の数も多くなり新旧の差も甚しく、機能は中止状態になってしまった。その後、各世代毎の連絡はあったのでしようが、OB全般の連絡がとれずにいた。私も、東京に帰り、成城水泳会の再建をしたいと考へていた。

ちょうどその頃、若い人達の間にもその概運が生じ、昭和50年再建委員会をひらいた。7月1日に成城クラブで再選第一回総会を開いた。

会則は昭和35年の時と殆んど同じで、少し改訂し、現在名簿にしるされている様なものになった。その時の役員は

会長 鈴木忠夫

常務理事 鈴木勝太郎、山口宗樹、竹尾快助、丹沢章浩、福田竜三、山本勉、桑原和司、藤沢靖弘、

理事 森美秀、小沢真一郎、田中義昭、山本勝、村瀬友三郎、森洋、堀正美、岡本浩三、前田博史、桑原重治、中山武夫、正岡勝、長谷川勝、根岸繁夫、麻植康夫

名誉会員 小原国芳、高松三二、妹尾一三、白井毅、小野嘉寿夫、森源太郎、内田昇三、斉藤正、西潟正、山中正剛、十文字美博、太田茂照

その後、昭和52年9月14日三井クラブに於て総会を開催した。

昭和53年10月リックスにて総会を開催、役員改選の結果、全部留任と決まった。常務理事、桑原和司が渡米中のため岡本浩三理事が常務理事となり、桑原君は理事となった。

昭和54年6月12日成城クラブで総会を開催する。

昭和55年5月12日成城クラブで総会を開催、再任を全員一致で可欠さる。役員改選、安井氏を会計理事として承認。グァム島遠征報告を根岸氏よりされる。昭和55年11月29日三井クラブに於て成城水泳部満50周年パーティを実施した。

昭和56年6月25日成城クラブで総会を開催、会費値上げの件(4,000円に)3~4年おきに理事を増す件 田原氏、小平氏、石塚氏、黒田氏を新理事として承認する。

昭和57年3月11日成城クラブで総会を開催、常務理事4名(村瀬友三郎氏、桑原和司氏、小平恵洋氏、石塚厚氏)増員の件、会期の変更 4月1日~3月31日を1月1日~12月31日にする。前項に伴い役員任期を6ヶ月延長する。以上の件について可欠

「50年誌」準備委員として鈴木忠夫氏、鈴木勝太郎氏、山口宗樹氏、丹沢章浩氏、福田龍三氏、中山武夫氏、根岸繁雄氏、小平恵洋氏、石塚厚氏、黒田克己氏が選出される。

昭和58年3月9日成城クラブで総会を開催、会長鈴木忠夫氏より水泳会再建後9年たち、後進に路を譲りたい旨辞任の意志表明があり、続いて後任に山口氏を推選され、全員一致でこれを了承した。ついで常務理事鈴木勝太郎氏も辞任されることとなった。次に新会長山口氏より両氏及真野国夫氏については成城水泳部設立以来50有余年に渡り多大な貢献が有ったので名誉会長、顧問を新設して推選したい、又同時に副会長も新設したい旨提案があり、全員これを了承した。又、年会費を5,000円に値上げする件、会則の一部変更、副会長に竹尾快助氏を推選についても可決された。以下変更された会則を記載しておく。

(イ)第5条 本会に次の役員をおく

- (1)会長1名 (2)副会長 (3)常務理事 若干名
- (4)理事10名以上 この他に名誉会長、顧問を置くことが出来る。

(ロ)第10条 副会長常務理事は会長が任命し理事会の承認を得る。